

療育の支援プログラム・支援内容

項目	支援目標	支援内容	主たる対応者
健康生活	<ul style="list-style-type: none"> ●健康状態の維持・改善 ●生活のリズムや生活習慣の形成 ●基本的な生活スキルの獲得 	<p>健康な心と体を育つための支援を行う。また、意思配慮を考慮し、生活リズムを整える。食事、排泄、睡眠、着脱、排せつ等の生活リズムを整える。また、障害のある児童が安心して生活できるように配慮する。生活リズムを整える。また、障害のある児童が安心して生活できるように配慮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童発達管理責任者 ●児童指導員 ●各関係機関 ●ご家族
運動感覚	<ul style="list-style-type: none"> ●姿勢と運動・動作の向上 ●姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ●保有する感覚の総合的な活用 	<p>日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように、遊具等を通して支援する。保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。感覚の偏りに対する（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する等の支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童発達管理責任者 ●児童指導員 ●各関係機関 ●ご家族
認知行動	<ul style="list-style-type: none"> ●認知の発達と行動の習得 ●空間・時間、数等の概念形成の習得 ●対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 	<p>視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。環境から必要な情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。物の機能や属性、形、色、音が変化する場合、空間・時間等の概念の形成を図る。このため、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。数量、形、大きさ、重さ、色の違い等の習得の適切な支援を行う。認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童発達管理責任者 ●児童指導員 ●各関係機関 ●ご家族
言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ●言語の形成と活用 ●言語の受容及び表出 ●コミュニケーションの基礎的能力の向上 ●コミュニケーション手段の選択と活用空間・時間、数等の概念形成の習得 	<p>具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えるなど、言語を受容し表出する支援を行う。個々の考えを配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解や意思の伝達ができるよう支援する。発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童発達管理責任者 ●児童指導員 ●各関係機関 ●ご家族
人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> ●他者との関わり（人間関係）の形成 ●自己の理解と行動の調整 ●仲間づくりと集団への参加 	<p>人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。周囲の子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性を発達させる支援する。大人を介して自分のできることで、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童発達管理責任者 ●児童指導員 ●各関係機関 ●ご家族